

# 令和8年度 もみじの丘小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24518

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケート「自分で考えたり調べたりして進んで学習し、むずかしくても最後まであきらめずに取り組んでいる」86.3%、共通指標アンケート「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」79.7% (R6) → 83.3% (R7)と、粘り強く取り組む力が育っている。</p> <p>◇「自分にはよいところがある」の回答が92.2%と高く、学習の中で活躍をしたり、できる喜びや分かる楽しさを味わったりする経験から、自己肯定感が高まっていることが分かる。</p> <p>◇「人の役に立つ人間になりたいと思う」という回答も94%を超えており、協働を通して自己有用感が高まっている。</p>
	<p>◇共通指標アンケートで、「自分で計画を立てて勉強している」78.6%、「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」76.0%と、他の項目に比べて肯定的な回答が低い。学び方を考えたり決めたりして、自分で見通しをもって取り組む力の育成が今後の課題である。</p> <p>◇「意見を発言する前に自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」が77.1%に減少傾向。伝える経験、伝わった時間や喜び、伝えたいという意欲を引き出す学習展開を工夫していくことが課題である。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤 〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇「学ぶ」ことに対して素直に取り組む、意見の相違に関わらず他者へ共感したり、分からないところを聞こうとしたりする反面、自分の意見を進んで伝えようとする児童が多くないのが現状である。協働を通して個々の学びを深めていくために、「自分の思いを伝える」「他者の思いを受け止める」「自分で決める」場を創出するなどして、多様な見方や考え方に触れ、認め合いの心を培うことが必要である。日常の中で一人一人の主体性を大切にしながら多様な学びの中で相互承認の感度を磨いていく。</p>	

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 「自分から伝える力」「受け止める力」「自分で決める力」

取組	課題探究的な学習の推進に向けて	自主的な活動の充実に向けて
	<p>(1) 研修テーマ『どの子どもも自分の思いを伝え合う授業づくり』を基に、既習を生かした学びと、受け止める力を高める場づくりの二つの柱で学習を構成し、教職員が互いに交流する機会を設ける。</p> <p>(2) 教室掲示や板書の工夫、伝え合う交流の場づくりなど、自分の思いをもち見通しをもって取り組むための手立てを講じていく。</p> <p>(3) 各学年ここだけは落とさずに定着させたいという教科の重点を整理し、家庭との共通理解を図り、基礎的基本的な力の定着につなげる。</p>	<p>①自主的な活動として、全校朝会や行事等の取組から課題点や成長点を見付け、次の取組や学級活動へとつなげていく。</p> <p>②異学年交流の場では、各学年の役割を明確化し、発達段階に応じて責任感や役割意識を高めていく。</p> <p>③二期四節の目標を、学年の実態に応じて日常的に浸透させていく。 →各学級で「もみじの日」のめあてづくりに取り組み、振り返りの場を大切にする。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>		
<p>◇共通指標 ICT の活用についてのアンケートから、「学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う」という回答が91.1%と、活用による効果の実感が見られる。しかし、「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている」68.4%、「端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている」72.6%と、昨年度より10%以上減少している。端末を使うことで、表現力や学び方を広げたり、より学ぶ力に結びつく活用の仕方を知ったりできるよう、研修と実践的活用を進めていく。</p>		

### <本プログラムの実行に向けて>

